

経営比較分析表（令和6年度決算）

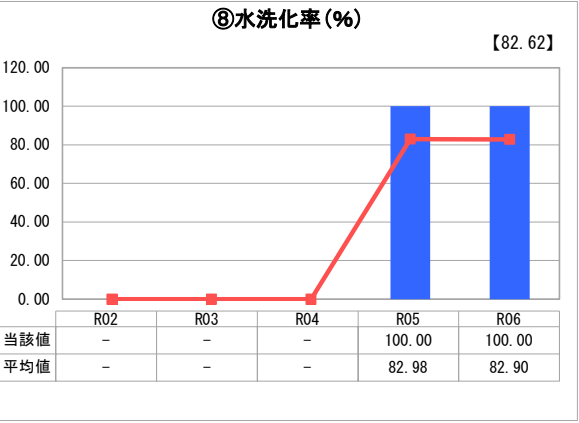
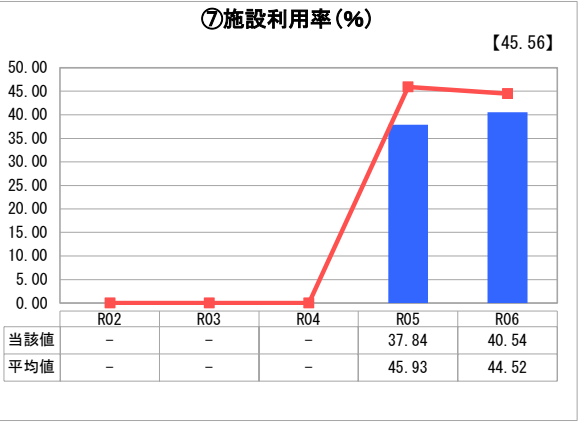
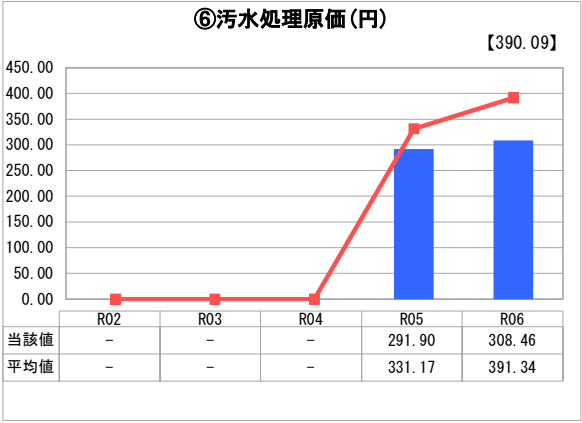
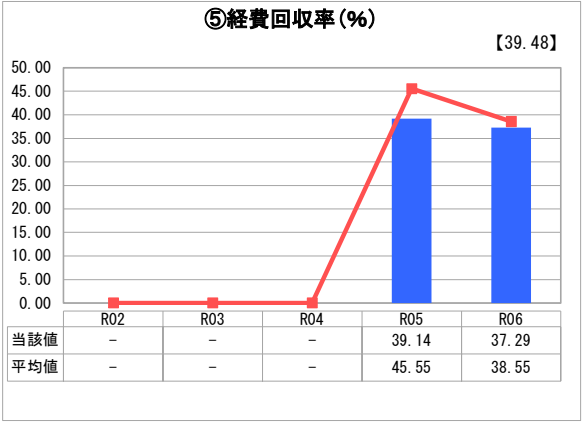
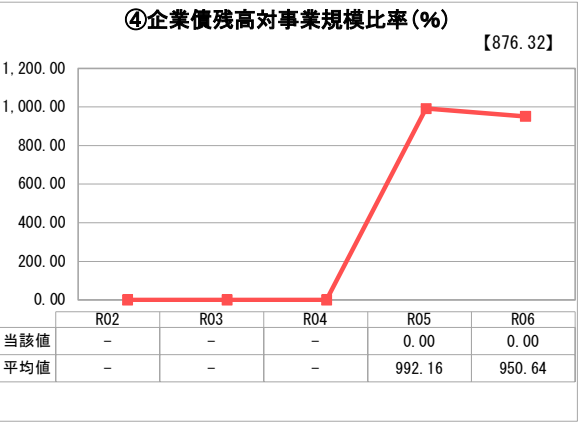
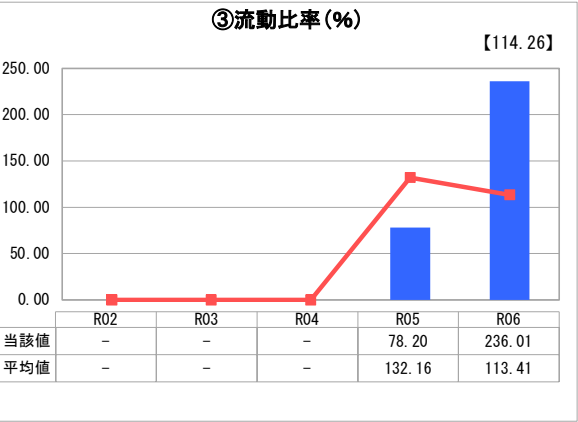
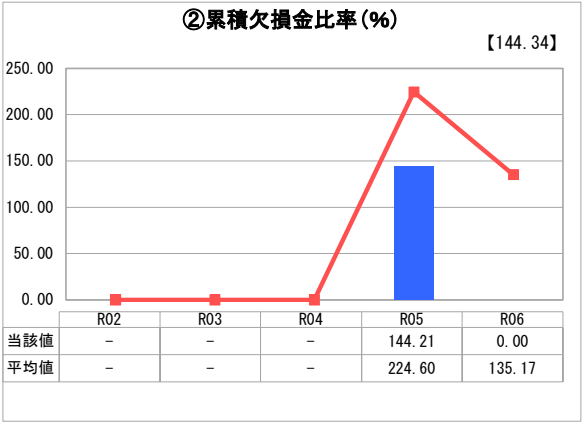
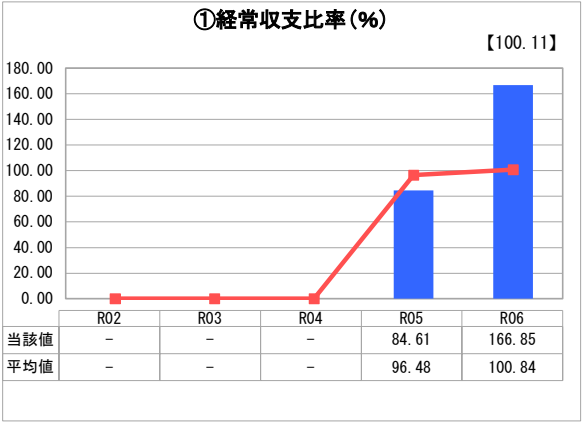
群馬県 中之条町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	個別排水処理	L2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	37.66	0.36	100.00	2,200

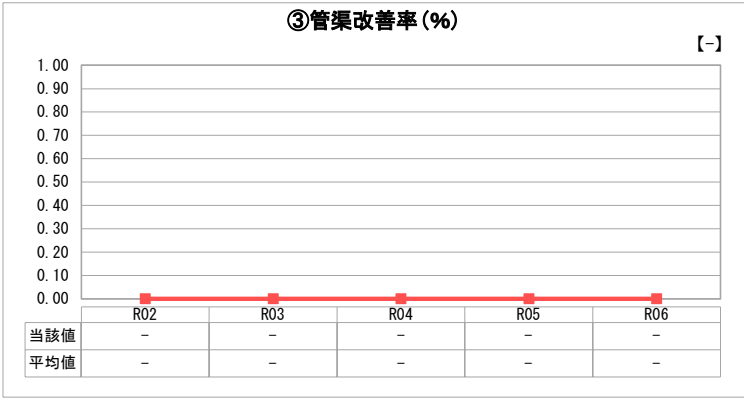
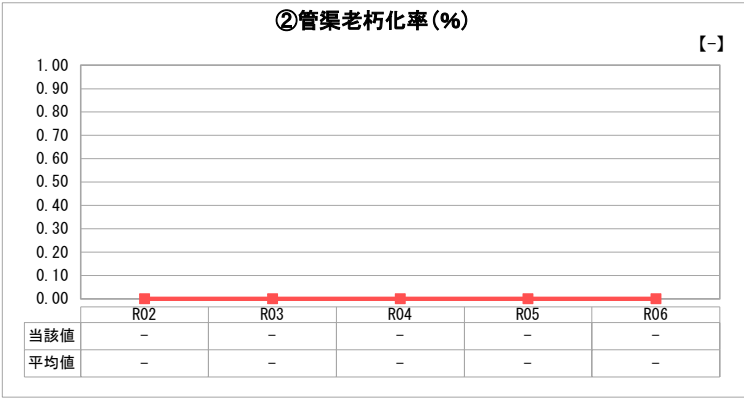
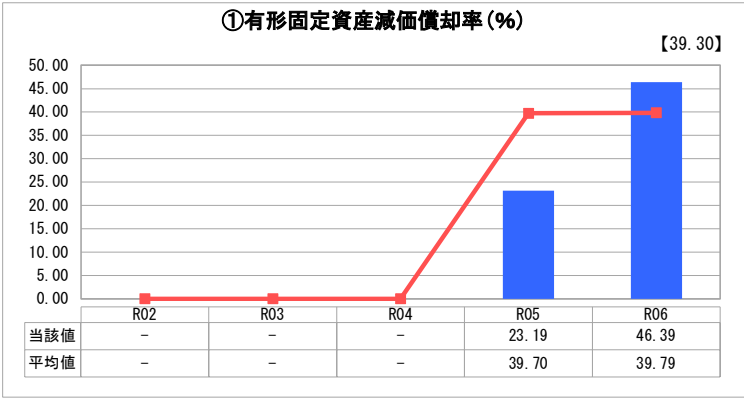
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
14,326	439.28	32.61
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
51	0.01	5,100.00

■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、166.85%と、前年度と比較して大きく増加した。主な要因としては、元金償還に充てた繰入金を長期前受金戻入として計上したことが挙げられる。

③流動比率は、企業債償還額の減少に加えて、現金預金等の流動資産が増加したことにより大幅に上昇した。

④企業債残高対事業規模比率は0%となっているが、これは一般会計からの繰入金に依存しているためである。今後は企業債残高の減少に伴い、一般会計への依存度も減少する見込みである。

⑤経費回収率は、類似団体平均とほぼ同水準であるものの、40%未満にとどまっている。これは、使用料収入に対して維持管理費が多いためである。

⑥汚水処理原価は、類似団体平均をやや下回っているが、今後も維持管理の効率化など経営改善が必要である。

⑦稼働施設は、23基の合併処理浄化槽である。施設利用率は、類似団体平均をやや下回っており、人口減少により今後は通減することが予想される。

⑧水洗化率は100%である。

2. 老朽化の状況について

平成7年度より事業を開始し、約30年が経過している。

①令和5年度の法適用時に固定資産を取得したものと捉えて取得価格を再評価したことにより、開始時点の減価償却累計額が0となった。そのため、前年度の有形固定資産減価償却費率は、かなり低い水準であったが、当年度は減価償却累計額の増加に伴い上昇した。

全体総括

本町の個別排水処理事業は令和5年度より公営企業会計に移行した。

経営指標においては、⑤経費回収率と⑦施設利用率が類似団体との比較でやや劣っており、経営の改善が必要な状況にあるといえる。

処理区域は人口減少が進む山間地域であり、使用量の増加は見込めないため、収入は一般会計からの繰入金に大きく依存している状況である。

浄化槽の維持管理のみ実施しており、維持管理等の効率化を図るとともに、今後は市町村設置型から個人管理型への移行を進めていくことも検討する必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。